

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
				内部評価		外部評価	外部評価	
(3) 基礎学力の向上	○農業に係る基礎学力に学生間差がある	○基礎学力の向上(学校全体のレベル向上)	○1、2年の4月当初に学力テスト実施 ○基礎学力の向上 ・国語(1年33名) ○入試合格者への課題提出(数学、国語、基礎化学)	○計算演習8h実施 ○ノベルズアグリ懸賞が中止のため校内での論文提出100%	A	設定する目標は、計算演習をやる時間ではなく「ここまで上がった」の目標が必要。	A	○基礎学力の向上
(4) 社会人力の養成	○社会人としての意識向上 ○コミュニケーション能力の向上 ○多様な学生への対応	○社会人として行動・実践できる人材育成 ○現状把握と対応策の検討 ○学生の人権意識醸成	○入校時の生活指導 ○接遇の講義、社会人マナー研修の実施 ○日常的な授業・生活指導 ○寮の定期的な部屋替え ○人権・メンタル面のカウンセリング実施<臨床心理士>(1年33名+2年希望者)	○社会人としてのルール、マナーを守れる学生の育成 ・1年生は寮生活の指導を強化。ルール遵守を徹底できない学生もいるが、インターンシップ研修の事前連絡・挨拶は全員円滑に連絡が取れた。(32名延べ23社) ・2年生の先進農家等留学研修における苦情無し。 ○メンタルカウンセリング実施(7/21~7/28 1学年・全員、2学年・希望者) 退校者無し。 ○会計年度任用職員1名配置継続	B	雇用する側としては、明るく、素直で元気よく、一般的な常識や良い悪いを判断する力を求めている。 SNSも学生主導で、できなくても良いので前向きに取り組んでいくという意識づけをして欲しい。 寮の部屋替えのタイミングについては、特例以外は、学校が決めておくべき。	B	○コミュニケーション能力の向上 ○多様な学生へのカウンセリング対応

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
				内部評価	外部評価	外部評価	外部評価	
2 専門性の向上 (1) オランダとの交流	○レンティス校との交流維持	○国際的な感覚を備えた人材の育成	○オランダ・レンティス校学生の受け入れ(約10日間) ○補習による英会話能力向上 ○オランダ訪問団への参加(短期約10日間)	○新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、受け入れ中止 ○英会話補習 週1回 実施中(1年5名) ○派遣研修 中止 <u>相互交流継続確認のため県職員渡蘭、継続決定(9月)</u>	評価不能	コロナの影響で派遣研修等が中止となったものであり評価不能。	評価不能	○レンティス校との交流
(2) プロジェクト活動の強化	○課題解決のための計画、実行、分析能力の向上	○卒論審査 全員合格 ○次世代ハウスを活用したプロジェクトの実施 2 課題以上	○地域課題に対応したプロジェクト課題の選定 ○四国農学連意見発表会に参加(12月、2名) ○中国四国農学連プロジェクト発表会に参加(1月、2名) ○実習後の実習日誌の指導(年間) ○次世代型ハウスを活用したプロジェクト実習(年間)	○学生の自主性を高める指導の実現(2年) 中間発表実施(4/11) (1年) 課題設定・発表・各専攻で共有(7月) ○プロジェクト審査 2 年生(1/18~19 27 名全員合格) ○四国農学連意見発表会への参加(発表者 1 年 2 名) ○中四国農学連プロジェクト発表会への参加(発表者 2 年 1 名・入賞なし) ○実習日誌による指導回数(野菜、花き、果樹 1 回/月、畜産 2 回/月) ○高軒高ハウスの利活用 ・高軒高ハウスで 2 課題のプロジェクト学習の実施 ・環境制御の理論及び操作 方法の習得指導(園芸学科 1,2 年生)	B	実習日誌は是非ともデジタル化を進めて欲しい。 デジタル化をすすめ、自分で一生懸命調べるなどして色々なことを習得するように指導して欲しい。	B	○課題解決のための計画、実行、分析能力の向上 <u>○IoP クラウド、タブレットを活用した教育内容の充実</u>

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
					内部評価		外部評価	
(3) 法人の求める能力の育成	○コミュニケーション力の向上 ○農業法人との連携	○法人就農者の確保	○雇用就農に対応した講義の実施 ○法人とのマッチング・法人との意見交換会 <u>○法人へのインターンシップ時期の見直し</u> ○先進農家等留学研修の実施	○法人就農割合・人数 11%、3名(42%) (5か年平均23%) ○労務管理講義(社労士)6h実施 ○法人との意見交換会開催 2年27名(5/13) <u>○インターンシップ実施(1/30~2/6)</u> <u>法人・関連企業延べ23社へ32名派遣(96%)</u> ○先進農家等留学研修実施 2年生27名(10/14~11/30)	B	法人への就農割合が下がっている。進路情報の共有やインターンシップの実施等、さらなる連携が必要。 非農家出身でも、農大で学んだことで法人での定着率が高いと思う。農大を出て別の職業に就く人もいるだろうが、いつか戻ってこられるような教育をして欲しい。	B	○法人との連携強化
(4) 各種資格・免許取得	○必要な資格免許の取得	○専攻課程に応じた免許取得者の確保 ○資格取得のための支援	○資格取得の必要性の周知、講義・補習実施 【資格・免許等】 ・危険物乙種4類取扱者 ・エクセル3級 ・フォークリフト ・小型車両系建機(3t未満) ・日本農業技術検定 ・大型特殊免許(農耕車限定)(選択) ・フラワー装飾(選択) ・人工授精師(選択)	○合格者数 ・乙4類0名/14名(0%) ・エクセル3級24名(96%) ・フォークリフト32名(96%) ・小型車両系建機(3t未満)32名(96%) ・日本農業技術検定3・2級23名(115%) ・大型特殊免許(農耕車限定)16名(160%) ・フラワー装飾技能3・2級5名(83%) ・人工授精師受講者全員合	B	果樹は、ドローンが操作できるようになって欲しい。 危険物乙4は農家はあまり必要としていない。受験対象者等を再検討して欲しい。 農業技術検定も高校レベルで良いのではないかな。 農業法人への就職を希望する場合、2トン以上の自動車免許を取れるようにしてはどうか。	B	○必要な資格取得支援

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
					内部評価		外部評価	
3 進路支援活動の強化 (1) 就職活動の支援体制の強化	○卒業後直ちに就農できる学生は少ない ○就職活動の意欲が低い学生が散見	○進路指導の徹底	○進路別カリキュラム（就農、雇用就農、就職コース）の支援 ○三者面談の早期実施 ・2年生：5月実施 ・1年生：9月実施 ○就職試験対策 ・面接補習、基礎学力補習 ・履歴書作成指導 ○求人情報の把握と紹介 玄関前、寮1階への掲示(毎月) ○個別にインターシップ紹介（再掲） ○会社説明会の実施(3月) <u>○高知大学への四大編入に向けた進路指導の充実</u>	○進路内定率 88% 24／27名(88%) ○三者面談の早期実施 ・2年生：5月 ・1年生：9月実施 ○就職試験対策 ・3月に実施 ○求人情報の把握と紹介 玄関前、寮1階への掲示(毎月)、職員間共有 ○個別にインターシップ紹介（再掲） ○会社説明会（3月予定） <u>○編入合格者2名</u>	B	就職先を明確に決めずに入校している者がほとんど。2学年の春には進路が決められるように支援が必要。	B	○進路指導の徹底
(2) 就農支援	○将来の就農ビジョンが明確でない	○就農率の向上	○コース別による就農に向けた栽培・経営計画、目標の明確化（経営計画の策定、農業機械操作、ハウス張替、土づくり） ○J A 高知市青壮年部との意見交換会 ○地域担い手協議会・農業振興センターと連携（データの共有）	○就農率 合計10名（うち雇用3）37%(74%)（5か年平均45%） ○J A 高知市青壮年部との意見交換会（コロナ・中止） ○南国市農業委員会との意見交換会 ○自営就農7名について、該当する地域担い手協議会・農業振興センターと連携（進路面談後データの共有）	B	色々な品目があるので、早く決められるよう支援が必要。 農業法人のもとで4年間（国と県の支援で）研修して独立就農に向けていく取組が始まるので、その活用も視野においてほしい。	B	○就農後の経営安定に向けた指導内容の充実

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		次年度の対応
					内部評価		外部評価	
4 教職員のスキルアップ 研修の強化	○生産現場の課題をいち早く授業に取り上げて円滑な就農に結び付けることが必要	○各種研修への参加	○教官研修の受講 ○教職員研修の充実	○新任者2年目研修1名 ○西日本担当者会 野菜：書面開催 花き：開催延期 果樹：開催延期 畜産：書面開催 ○中国四国教務担当者会 書面開催 ○県教育センターへの研修参加2名延べ3回	B	ICT能力を磨くことが重要。チョークと黒板とで教える時代ではない。タブレットを使えば発言が苦手な子どもも参加できる。多様化した学生に寄り添うことができる指導力、体制が必要。	B	○教職員研修の実施
	(再掲) ○多様な学生への対応	○現状把握と対応策の検討 ○学生の人権意識醸成	○産地の栽培技術等の動向調査 ○人権・メンタル面のカウンセリング実施＜臨床心理士＞（1年33名＋2年希望者） ○職場研修実施	○野菜産地視察 4回 花き産地視察 4回 （2月中下旬農技センター視察を予定）（80%） ○メンタルカウンセリング実施（7/21～7/28 1学年・全員、2学年・希望者）退校者無し。 ○会計年度任用職員1名配置 ○職場研修 「インターネットと人権～加害者にも被害者にもならないために～」8/25、26延べ15名				○多様な学生へのカウンセリング対応（再掲）